

## 2 単位修得、成績評価及び卒業規程

(目的)

第1条 この規程は、西尾市立看護専門学校学則（平成9年3月27日規則第11号。以下「学則」という。）第10条の2第2項の規定により、西尾市立看護専門学校の単位修得、成績評価及び卒業について必要な事項を定めることを目的とする。

(単位修得)

第2条 授業科目の単位修得の認定は、その授業科目の担当教員又は担当講師が学科試験、実習成績の評価、出席状況等により行う。

2 授業科目の評価は、優（80点以上）、良（70点以上80点未満）、可（60点以上70点未満）及び不可（60点未満）を以て表現し、不可以外の者に単位を与える。

(履修認定)

第3条 履修認定を受けようとする者は、次に掲げる書類を所定の期日までに学校長に提出するものとする。

- (1) 履修認定申請書
- (2) 成績証明書又は単位修得証明書
- (3) 認定を希望する科目の講義内容を示す文書

2 学校長は、前項第1号の履修認定申請書が提出されたときは、申請科目担当講師の意見を聞いた後、決定する。

3 認定科目の評価は、認定と表現する。

(試験及び評価の資格)

第4条 学科試験及び実習（以下「試験等」という。）の評価は、原則として授業科目の授業時間数の3分の2以上出席した者に対して行う。

2 学科試験に関して、次の各号のいずれかに該当する者は、補習を受け、授業科目の授業時間数の3分の2以上の出席を満たした場合は、学科試験の評価を行う。

- (1) 傷病その他やむを得ない理由により欠席し、医師の診断書、保証人の証明書、事故証明書等を提出し、学校長が認めた者
- (2) 忌引により受験資格を得るための授業科目の出席時間が不足した者

3 実習に関して、次の各号のいずれかに該当する者は、再度、実習を行い実習時間数の3分の2以上の出席を満たした場合は、実習の評価を行う。

- (1) 傷病その他やむを得ない理由により欠席し、医師の診断書、保証人の証明書、事故証明書等を提出し、学校長が認めた者
- (2) 忌引により受験資格を得るための授業科目の出席時間が不足した者

4 傷病その他やむを得ない理由により、試験を受けられない者は、原則として、試験開始時間前までに連絡を入れることとする。連絡がない場合は、当該試験を放棄したものとみなす。

- (1) 傷病その他やむを得ない理由により欠席し、医師の診断書、保証人の証明書、事故証明書等を提出し、学校長が認めた者

(試験の種類)

第5条 試験の種類は、本試験、追試験、再試験、特別試験、本実習、追実習及び再実習とする。

- 2 本試験は、授業科目の講義終了後に行う試験をいう。
- 3 追試験は、傷病その他やむを得ない理由等により本試験を受験できなかった者に対して行う試験をいう。
- 4 再試験は、本試験及び追試験の成績が合格点に満たなかった者、本試験を無断欠席した者又は欠席理由が認められなかった者に対して行う試験をいう。
- 5 特別試験は、傷病その他やむを得ない理由等により再試験を受験できなかった者に対して行う試験をいう。
- 6 本実習の評価は、実習終了後に行う。
- 7 追実習は、傷病その他やむを得ない理由等により本実習の実習時間数が3分の2以上の出席を満たさなかった者に対し行う実習をいう。
- 8 再実習は、本実習の成績が合格点に満たなかった者に対して、行う実習をいう。
- 9 追実習及び再実習の実施は、別表のとおりとする。

(試験等の成績評価)

第6条 試験等の成績評価は、次のとおりとする。

- (1) 試験等の成績評価は、原則として授業科目の講義及び実習等の終了後に行う。
- (2) 試験等の成績評価は、授業科目ごとに行う。
- (3) 授業科目を複数の教員又は講師が分担している場合で、教員又は講師ごとに試験を行うときは、集約する。
- (4) 本試験及び追試験の成績評価は、1授業科目100点満点とし、60点以上を合格とする。
- (5) 再試験の成績評価は、60点以上を合格とする。ただし、再試験で合格した当該科目の成績は60点とする。
- (6) 本実習及び追実習の成績評価は、1授業科目100点満点とし、60点以上を合格とする。
- (7) 再実習の成績評価は、60点以上を合格とする。ただし、再実習で合格した当該科目の成績は、60点とする。
- (8) 特別試験の成績評価は、60点以上を合格とする。ただし、特別試験で合格した当該科目の成績は、60点とする。

(聴講)

第7条 聴講を希望する学生は、学校長に聴講願を提出し、申請し、講師の許可を得なければならない。

- 2 学生は、基礎分野、専門基礎分野、専門分野を問わず、聴講を希望することができる。
- 3 聴講は、授業科目を履修する学生の受講に支障のない場合に限り、認めることができる。
- 4 聴講を許可された学生は、学習目的が達成できるように授業に参加し、必要な予習、復習及び課題に取り組まなければならない。

(一部単位未認定者の在籍学年)

第8条 一部単位未認定科目があっても、原則として原級留置はなく、次学年の在籍とする。

2 次学年では、未認定科目を優先して履修し、当該学年実施科目も履修することができる。

(臨地実習の履修要件)

第9条 専門分野(基礎看護学を除く)の臨地実習開始までに、未認定科目がある場合は、原則として臨地実習の履修を許可しない。

2 看護の統合実習開始までに、未認定科目がある場合は、原則として看護の統合実習の履修を許可しない。

3 実習開始前及び実習中に次の各号のいずれかに該当する者は、臨地実習の履修を許可しない。

(1) 患者の安全性の確保ができない者

(2) 実習態度に問題があり、問題行動を繰り返す者

(3) 心身の健康状況が実習をする上で支障をきたす者

4 再実習及び実習を再履修する場合は、実習前の教員との面接を必須条件とし、面接後、本実習の状況を振り返り、自己の問題を明確にし、実習の自己目標を立案できることを要件とする。

(卒業の認定)

第10条 学則第11条に規定する卒業の認定は、西尾市立看護専門学校運営委員会の審議に基づき、学校長が行う。

2 前項の卒業の認定に係る要件は、別表に掲げる全ての単位を修得することとする。

附 則

この規程は、平成8年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成9年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

1 この規程は、平成23年4月1日から施行する。

2 改正後の諸規程2単位修得、成績評価及び卒業規程第5条及び第6条の規程は、平成23年4月1日以降に入学する者について適用し、同年3月31日において在学する者については、なお従前の例による。

附 則

この規程は、平成24年5月1日からの施行する。

附 則

この規程は、平成25年12月1日からの施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日からの施行する。

附 則

この規程は、平成28年4月1日からの施行する。

附 則

この規程は、平成31年4月1日からの施行する。

附 則

この規程は、令和2年11月9日から施行する。

附 則

- 1 この規程は、令和4年4月1日から施行する。
- 2 改正後の諸規程2単位修得、成績評価及び卒業規程第5条及び第6条の規程（以下「新規程」という。）は、令和4年4月1日以降に入学する者について適用し、同年3月31日において在学する者（以下「在学者」という。）については、なお従前の例による。
- 3 在学者が新規程に規定する科目を履修した場合において、学校長が必要と認めたときは、改正前の2単位修得、成績評価及び卒業規程第5条及び第6条の規程に規定する科目を履修したものとみなすことができる。

附 則

- 1 この規程は、令和5年4月1日から施行する。
- 2 改正後の諸規程2単位修得、成績評価及び卒業規程第4条、第5条及び第6条の規程（以下「新規程」という。）は、令和4年4月1日以降に入学する者について適用し、同年3月31日において在学する者（以下「在学者」という。）については、なお従前の例による。
- 3 在学者が新規程に規定する科目を履修した場合において、学校長が必要と認めたときは、改正前の2単位修得、成績評価及び卒業規程第4条、第5条及び第6条の規程に規定する科目を履修したものとみなすことができる。

別表（第5条関係）

追実習及び再実習の実施時期等

- 1 看護の基礎実習Ⅰの追実習及び再実習は、春季休暇期間に実施する。
- 2 看護の基礎実習Ⅱの追実習及び再実習は、夏季休暇期間に実施する。
- 3 看護の基礎実習Ⅲの追実習及び再実習は、春季休暇期間に実施する。
- 4 夏季休暇前に実施した専門分野の臨地実習（以下「領域実習」という。）の追実習及び再実習は、夏季休暇期間に1実習実施する。夏季休暇期間に実施できなかった領域実習の追実習及び再実習、夏季休暇以降に実施した領域実習と看護の統合実習の追実習及び再実習は、冬季休暇以降2月末までの期間で1実習実施する。
- 5 領域実習の内、生命の育みを支える看護実習（以下「母性看護学実習」という。）の追実習及び再実習は、2月の領域実習実施期間で実施する。

学年	1年		2年		3年	
実習種類 時期	本実習	追・再実習	本実習	追・再実習	本実習	追・再実習
4月					領域実習	
5月					領域実習	
6月			看護の 基礎実習Ⅱ		領域実習	
7月					領域実習	
7月 (夏季休暇)				看護の 基礎実習Ⅱ		領域実習 (1実習)
8月 (夏季休暇)						
9月					領域実習	
10月	看護の 基礎実習Ⅰ				領域実習	

学年	1年		2年		3年	
実習種類 時期	本実習	追・再実習	本実習	追・再実習	本実習	追・再実習
11月					看護の 統合実習	
12月						
1月			看護の 基礎実習Ⅲ			領域実習 看護の統合 実習
2月			領域実習			母性看護学 実習 (1実習)
3月						
3月 (春季休暇)		看護の 基礎実習Ⅰ		看護の 基礎実習Ⅲ		

※ 領域実習は、専門分野の基礎看護学と看護の統合と実践を除く6領域の実習であり、地域・在宅看護論、成人・老年看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学の実習をいう。